令和４年度全国学力・学習状況調査　分析

１　成果及び課題

（１）【国語】

これまでに引き続き、全ての領域で全国平均を上回る正答率である。昨年度課題であった「話すこと」「聞くこと」に力を入れ、スピーチやディスカッションなどの活動にも取り組んできたためか、全国平均よりも高い数値になっている。課題としては、「記述式」「書くこと」「読むこと」に関する項目が、昨年よりも下がっている。本校では全校で毎朝読書活動を行い、本に親しむ習慣をつける取組を推進してきたが、読み取った内容をもとに、自分の考えをまとめて「書くこと」については、今後さらに学びを深めていく必要があると考えている。

（２）【数学】

これまでに引き続き、全国平均を上回る正答率である。特に領域では「図形」分野が、問題形式では「記述式」の正答率が高くなっている。これは、「図形の証明」の学習において、説明する活動を多く取り入れたため、このような結果につながったと考えらえられる。課題として、「数と式」の正答率が他と比べて低い傾向にある。「数と式」の内容については、年度初めに学習するため、学習した内容が生徒の中で抜け落ちてしまった可能性がある。今後は、これまで以上に既習内容の確実な定着を図る必要がある。

（３）【理科】

全ての領域で全国平均を上回る正答率である。「粒子」「選択式」の項目については、全国平均を越えているものの、さらに伸ばしたい項目である。また、昨年度までの他の評価テスト、調査では「記述式」の項目について課題があったが、改善が見られている。これは、グループ活動等で仲間と共に課題解決を進めることや、授業後に振り返り活動を行うことで、自分の言葉で説明する機会を設けてきたことが関係していると考えている。特に、「粒子」は目に見えず、イメージしづらい内容であるため、１年次の授業より、説明の際にモデルを使用したり、図示化したりと、生徒が想像しやすい授業展開を心掛ける必要がある。

（３）【学校質問紙調査】

学級活動・キャリア教育（職業人講話等）を通して、将来の職業や夢について考える機会を設定しているため、このことが諸活動のやる気に繋がっていると考えている。

学習については、課題解決学習や小グループを活用した実践を行っていることが、授業の理解度に繋がっていると推察できる。また、昨年度課題であった ICT 機器の活用については、職員向けの校務の負担軽減などは進んでいる。しかし、生徒の質問紙では、授業で ICT 機器を使用することに大いに意味を見出していることが分かり、さらに授業で活用したいと考えていることが分かる。授業の目的に応じて、職員が自由に ICT 機器を操れる研究や環境整備を進めていく必要がある。

２　改善目標及び具体的な手立て

（１）【改善目標】

①国語：「読むこと」「書くこと」「記述式」の問題の正答率を上げる。

②数学：既習内容の確実な定着を図る。

③理科：粒子分野など、概念の理解を目指す。

（２）【具体的な手立て】

①朝読書活動の推進を継続し、自分の考えをまとめ、書く力を高める授業を多く取り入れる。国語の授業においても、文章の要約や、文章のポイントをおさえるための練習を行う。

②現在の学習内容だけでなく、前単元の内容などの復習を授業前に行う。定期テスト以外にも、単元テストを行うなど、既習事項の確認する機会を設ける。

③１人１台タブレット端末を活用し、概念のイメージ化や図示化を図るなど、生徒が理解しやすい授業展開を行う。